

主日礼拝

2023年7月16日(日)

題 「愛の大きさ」

テキスト：ルカによる福音書7章36～50節

皆さま、おはようございます。

週報にも記しましたが、長く淡路三原伝道所の牧師をされていまして、佃 克己牧師が、去る7月9日(日)午後県立淡路医療センターにて肺炎のため召天されました。92歳のご生涯でした。先生は長く淡路三原伝道所及び広石教会の牧師として奉仕されました。一時、洲本教会の代務者の任も負って下さいました。告別式は7月12日(水)淡路三原伝道所にてご長男の佃 真人牧師(三原伝道所)により、限られた人数で関係者の方々が集い執り行われました。告別式には洲本教会から宮崎牧師が参列しました。主のお守りの中、慰めに満ちた時となりました。

先生の上にご家族の皆さまの上に神さまの慰めと平安を心よりお祈りいたします。佃克己牧師は平和の大切さを心の内に持ち続けられた牧師であったと思います。コロナ禍の前、洲本市民広場で定期的に持たれていた、「ゴスペルを歌う会」にも80代後半にもかかわらずご自身で三原から車を運転して欠かさず出席して下さっていました。そのお姿に参加者も励まされていました。

さて、今日の聖書の個所には、主イエスが「愛の大きさ」について教えて下さったことが記されていると思います。

◆罪深い女を赦す

36:さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。

ファリサイとは、今から約2000年前のユダヤ教の体制下で、旧約聖書の律法を重んじる宗教的指導者した。その人の名がシモンということは後に出てきます。シモンがイエスを家に招いた意図は不明のように思えます。

ここからが本題ですが、

「37:この町に一人の罪深い女がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺

を持って来て、38:後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。」

とあります。この女性はこの町で「罪深い女」と言われ人々に知られていたようです。ある聖書の訳では「道をふみはずした」となっています。日常の行動において律法の教えに従っていなかったのだと思われれます。

しかし、この女性はイエスの言葉と行いに、心打たれ、慰められていたのです。イエスのことを聞いてどうしても、何としてもイエスのそばに行きたかったのだと思います。シオンの家に来て中に入ったのです。「愛は常識を超える」という言葉を思います。

女は「泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。」のです。この時の、この女性の行いはイエスは、ユダヤ教の指導者たちの反感を買い、苦しめられ捕えられて十字架につけられることを知っていたかのようです。

彼女はイエスを慕い、イエスが神の言葉を伝え続け、汚れていたイエスの足を自分の髪の毛で拭い、またこれからのイエスの生涯を案じて涙を流したのではないのでしょうか。そして女の持っていた高価な香油をイエスの足に注いだのです。この女性のイエスに対する愛から流れ出す思いからの行動だったのです。ユダヤでは、自分の家に客を招いた時、招いたものは客の足を洗ってあげることが通常だったのです。

ところが、イエスを自分の家に招いたファリサイ派のシモンは、招いたはずの客であるイエスに、もてなす行動をしなかったのです。シモンは一對どのような思いでイエスを家に招いたのかと思います。

イエスを招いたシモンは、「39:イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、『この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに』と思った。」とあります。

ユダヤの人々は、イエスの愛の言葉や行いを見て、その評判を聞いて、イエスは、旧約聖書で預言されている神からの預言者であると信じる人たちも多くいたようです。

しかし、シモンはそのことを疑っていたようです。

彼の心の中には、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」という思いが潜んでいたのです。人は本心を最後まで隠し通すことはできないということを思います。

そのような心のファリサイ派シモンに対してイエスは語りかけたのです。

彼に向けて、たとえ話をされました。

40:そこで、イエスがその人に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがある」と言われると、シモンは、「先生、おっしゃってください」と言った。

41:イエスはお話しになった。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。

金貸しから金を借りた二人の人の話です。1デナリオンは、当時のローマ

兵の一日の賃金といわれます。五百デナリオンとは、500日分のお金です。五十デナリオンとは、50日分の賃金です。ここでの二人には10倍の違いがあります。42:二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」

ここでの借金を帳消しにした金貸しとは、天と地と人間を創造された憐み深い神さまのことなのだと思います。また借金とは、わたしたち人間の罪のことだと思います。神は人間の罪を赦すために、御子イエスをこの世界に遣わされたのです。

42:二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」

と問われたシモンは、43:「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「そのとおりだ」と言われた。

でも。ここで終わりではないのです。問題は、この後のことです。

イエスは、**女の方を振り向いて**、シモンに言われました。「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。

わたしは「女の方を振り向いて」ということばに、イエスのこの女の慈しむ心を思います。一方シモンには、「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。

45:あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わたしの足に接吻してやまなかった。

46:あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。」毅然とシモンに告げています。イエスはシモンの心を見抜いていたのです。

実は、シモンはイエスを自分の大切な客として迎えてはいなかったのです。むしろこの女を利用してイエスを試そうとしたのではないか。神の子イエスがシモンの家に来たことによって、シモンの本心が暴かれることとなったのです。

わたしたちも日常の中で、神と主イエスから警告を受けることがあるのではないだろうかと思います。

当時の宗教的な常識に縛られていたシモンの常識が神の子イエスから問われているのです。シモンにとってはイエスとの出会いは気づきの時でもあったのです。

イエスは、シモンに静かにしかし毅然として言われます。

47:だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたし

に示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」「罪をゆるされたことは、愛の大きさで分かる。」とイエスは言われるのです。ファリサイ派は、常に律法・規則に照らして、罪のことを考えるのです。わたしたちの中にも、ファリサイ派的思考が幅を利かせることがあると思います。規則や家のルールや社会的常識などによって、人は罪を自覚するのです。また罪を見つけようとするのです。規則やルールも必要な時もありますが、絶対ではないのです。

しかし、規則だけでは人はついに救われることはないのです。なぜならどのような人間も神の前には罪はあるのです。人間、神の前には罪は0にはできないし、ならないのです。規則を大切にしながらも、規則主義だけにはなりたくないと思います。

しかし、このどうにもならない罪の問題は、赦されることによって解決するのです。その赦しは愛からのみくるということだと思います。神によって、主イエスを通して与えられ、注がれる赦しと愛があるのです。

この人（女性）が多くの罪を赦されたことは、イエスに示した愛の大きさで分かるのです。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。主イエスによって新しい考え方が登場したのです。愛は罪を覆うのです。愛の力だけが罪を覆えるのです。ペトロの手紙一4章8節「愛は多くの罪を覆うからです。」とある通りです。罪がなくなるのではないのです。

イエスによって与えられた愛があり、赦しがあるのです。

48:そして、イエスは女に、「あなたの罪は赦された」と言われた。

49:同席の人たちは、「罪まで赦すこの人は、いったい何者だろう」と

考え始めた。50:イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

主イエスは、十字架につけられ死んでわたしたち人間の罪を担われました。

人間を愛で包み、罪を赦してくださったのです。

わたしたち一人一人は神と主イエスに罪赦された者たちであることを心に覚え、感謝して互いに愛し合って（大切に合って）歩みたいと願います。